

愛知県環境審議会騒音振動部会 会議録

1 日 時

平成 23 年 2 月 10 日（木）
午前 10 時から 11 時 30 分まで

2 場 所

愛知県三の丸庁舎 8 階 803 会議室

3 出席者

吉久部会長、那須委員、三品委員、岡田専門委員

4 開 会

5 岡田大気環境課長あいさつ

6 吉久部会長あいさつ

7 会議録署名人指名

吉久部会長が、那須委員及び三品委員を指名

8 議 事

(1) 交通騒音・振動調査結果等について

資料 1 及び資料 3 に基づき事務局が説明

<質疑応答>

那 須 委 員： 新幹線騒音の各県の状況について、県によって達成率が異なっているが、これは J R 東海側の姿勢なのか、各県の力の入れ方の違いなのか。

三 品 委 員： 例えば滋賀県では 1 地点しか調査していないが、これはなぜか。

事 務 局： 滋賀県で調査地点が少ないのは住宅地に新幹線があまり通っていないことが考えられる。また、東京都の場合は、新幹線の速度が落ちているため達成率が高いと考えられる。

三 品 委 員： 滋賀県を走っている距離は比較的長いはずであるが、それでも 1 地点測定というのは、滋賀県の判断か、J R 東海の判断か。すなわち、これは滋賀県のデータか、J R 東海のデータか。

事 務 局： これは各県または市が測定したデータであり、行政が行った調査のデータである。愛知県については、名古屋市でかなりの被害が出

ていることもあり、多くの調査地点となっている。

吉久部会長： 東京付近では速度を落として走っている。それに対し、名古屋の7km区間ではかなり速く走っていると感じられる。

愛知県での72%という達成率が高いのか低いのか他の県との比較では分かりにくいですが、愛知県では年々達成率は良くなっており、早く90%程度にしてほしいものである。

吉久部会長： 自動車騒音の環境基準達成率については、過去3年間しか掲載していないので、よくなっているのかどうか分からない。

5年前、10年前のデータはどうか。

事務局： 平成16年度（5年前）の環境基準達成率は65.9%である。なお、平成12年度から面的評価を開始しているため、10年前の面的評価による達成率データはない。

三品委員： 資料3の表1-1ではどの場所で対策すればよいか分かりにくいので、結果が悪かったところから並べたデータがあるとよい。

吉久部会長： 資料3の表1-1の欄外の記載に当該地点で騒音測定を行わずシミュレーションを行ったとあるが具体的にどのような方法か。

事務局： この方法を行ったのは豊橋市と春日井市であるため、考え方について両市に確認する。

岡田委員： 今年度の調査結果のうち、蒲郡市大塚町平原の地点で6デシベル騒音が低下しているが、理由は何か。道路管理者はどのような対策をしているのか。

事務局： この地点について、現場調査した業者に確認したところ、排水性舗装されていることからそれが原因と考えられる。

岡田委員： このようなデータは積極的にアピールしたほうがよい。

事務局： これまでも実際に対策を行う道路管理者には環境サイドが測定したデータを提供して騒音改善を促しているが、今後も継続して行っていきたい。

岡田委員： 平成25年度より航空機騒音の評価基準がLdenに変更となるためこれまでのWECPNLでの評価と比較していかなければいけないと思

うが、愛知県としていつからLden 調査を始めるのか。

事務局： 環境部としてはLden 評価のできる機器の更新について平成 23 年度では予算要求が認められなかったため、平成 24 年度予算で再度予算要求し、機器を更新して評価を行う予定である。

また、空港側ではLden 評価できるようなので、そちらのデータを入手しその検証を行うことを考えている。

三品委員： しばらくはLden と WECPNL の両方を測定し比較していくほうがよい。

吉久部会長： 委員の意見も踏まえて是非機器更新の予算をとってほしい。

(2) 騒音・振動防止対策に係る調査結果について

資料 2 及び資料 3 に基づき事務局が説明

<質疑応答>

三品委員： 風力発電施設からの騒音及び低周波音は夜でもいつでも動いているので近隣住民にはやはり気になるものである。

吉久部会長： 現在環境影響評価の見直しが行われており、風力発電施設も対象にすることが検討されている。

那須委員： この調査は苦情のある施設を対象にしているとのことであるが、騒音及び低周波音データと苦情との関係で何かわかったことはあったのか。

事務局： 調査する際には、苦情者宅内で本人にいつ不快なのか等を聞き取りしながら行ったが、まだそれらの相関については分析していない。環境省が今年度からさらに綿密な調査を行うと聞いている。

吉久部会長： 環境省の調査では、今年から 3 年間かけて全国の風力発電施設 36 箇所を実測調査を行い、各測定地点で 20 件のアンケート調査を実施するとのことであるが、それにより何か人体と音との相関が見えてくるかもしれない。しかしながら、物理的には測定が難しいほどの小さな音であるし、予測や人体への影響も調査が難しい。現在環境影響評価の見直しが行われており、風力発電施設も対象にすることが検討されている。

三品委員： いつも動いている施設なので、一番大きな影響があるのは睡眠不足であろうと思われる。

事務局： 事業者については、田原市との話し合いの中でギアオイルがあまりよくないとのことであったため、すぐには効果は出ないとのことではあったが交換をしていただいた。そのほかにも対策はとれないか事業者と話し合ってはみたが効果的な対策は見つからなかった。

県としても今後も事業者と調整しながら問題が解決するよう努めていきたい。

岡田委員： 調査結果を見ると、その場所のバックグラウンドノイズが非常に小さな場所であると思われ、風車の回っている音はやはり聞こえてしまう。他でも同様の場所に風車が設置されているところが多く、環境省も評価に苦慮していると思われる。

愛知県では風力発電施設の環境影響評価はまだ行われていないのか。

事務局： 愛知県の制度としては行われていない。ただし、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の補助金を使って設置する場合、事業者アセスメントを実施することが条件となっており、アセスメントが全く行われていないわけではない。

岡田委員： 実は岐阜県では風力発電施設に関する環境影響評価条例があるわけではないが、昨年度に風力発電施設に関する方法書が出ている。環境省による指針等がないため、すでに条例のある静岡県を参考にしているとのこと。

工事着工から1週間も経たないうちに風車が出来上がってしまうため、環境省や岐阜県が言っていたが、住民説明会が非常に重要になる。愛知県も行ったほうが良いと思う。

吉久部会長： 資料2の調査方法で「低周波音レベル計はDRの交流出力を、…」とあるが、このDRとは何か。

事務局： リオンの低周波音レベル計NA-18において、1～500Hzまでを平坦で重み付けせず出力することをいう。

吉久部会長： 資料2の調査方法で「時定数 SLOW (1sec)」及び「時定数 FAST (125msec)」との記載があるが、正しくは「時定数 1sec」及び「時定数 125msec」である。

事務局： 訂正します。

9 岡田大気環境課長あいさつ

10 閉会